

苫小牧のスマートアグリプラントを拡張 ～温泉熱をプラント熱源として利用～

JFE エンジニアリング株式会社（本社:東京都千代田区、社長:狩野久宣）は、北海道苫小牧市のスマートアグリプラントを拡張することを決定しました。

またプラントの熱源として新たに温泉熱を利用するため、温泉の掘削を開始しましたので、お知らせします。

当社は、苫小牧市にガスエンジンによるトリジェネレーションシステムを備えたスマートアグリプラント（第一工場、第二工場／計 1.5ha）を建設し、2014年8月より、当社グループのJファーム苫小牧株式会社（本社:北海道苫小牧市、社長:木村康一）がトマトとベビーリーフの生産を行ってきました。出荷された作物は、北海道内のスーパーマーケット等で販売され、皆さまに御愛顧いただいております。

こうした中、当社は栽培品種の多様化を図るとともに、多様な熱源をプラントで利用する実証を行うため、第三工場（1.0ha）を増設します。

第三工場では、現在当社が横浜本社内の試験温室で開発中の高糖度トマト『スマートルビー』をはじめとする高付加価値品種の栽培・出荷を行います。本年11月末までに工場を完成し、『スマートルビー』の栽培を開始する予定です。

また、苫小牧のスマートアグリプラントで利用する熱源の実証については、既にガスエンジンによる排熱利用を行っており、2月中旬からのバイオマスボイラーによる熱源利用の準備を進めているところです。

これに加えて今回、温泉熱利用の実証を行うことにしたもので、これによりプラントを立地する地域で、最も入手しやすく経済的な熱源を活用したプラントモデルの確立を図ります。温泉熱利用の経済効果については、従来の温風暖房機などによる熱供給と比較して約50%のコストを削減することを見込んでいます。

当社は今後も、全国各地に存在する多様なエネルギー資源を活用できるスマートアグリプラントによる新しい農業ビジネスの形成を促進してまいります。

拡張計画図



温泉掘削用のやぐら



本件に関するお問い合わせは下記にお願い致します。
JFE エンジニアリング株式会社 総務部 広報室